

イノシシの特性と被害対策

【イノシシとは】

- イノシシはウシ目イノシシ科の哺乳類で、古くから食肉用として狩猟の対象とされてきた動物です。
- 体長：100～170cm
- 体重：80～190kg
- 主食：イネ、クズ・ヤマイモの根、ドングリ、昆虫、ミミズ、サツマイモ、果物
- 巣：浅くくぼみを付けた地面に落ち葉などを敷き詰めた巣を作る。出産期は、草や木の枝で天井を作る
- 民家付近に出没し、農作物や生ゴミを食い荒らすことで問題となっています。
- 野生のイノシシの寿命は、長ければ10年ほどで、平均寿命は1～2才。草食を主とした雑食の動物です。
- 俊足で高い跳躍力を持つなど、身体能力が優れており、泳ぐことも出来ます。
- 繁殖期は、12月～1月の発情期に始まり、4月～6月の出産で一度に4～5頭を産みます。

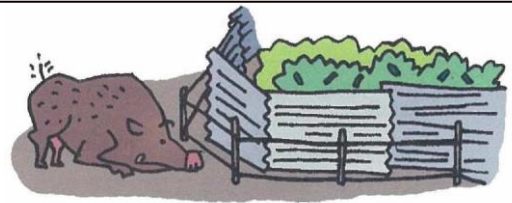
【イノシシの特徴】

- 非常に神経質で警戒心が強い
- 優れた嗅覚を持つ
- 雑食で、人間の出した生ゴミなども漁る
- 跳躍力が高く、十分な高さのない柵は跳び越えられてしまう
- 成獣であれば110cm程の柵は助走せずに飛び越える事が出来る
- 生後半の幼獣（ウリボウ）でも、65cmほどの柵を助走せずに飛び越えられる
- 鼻の押し上げる力が強く、60kgほどの物は動かす事が出来る
- 人間よりも俊敏で、時速約45kmで走ることが出来る
- 生息地域は増加傾向にある
- 群れを形成することがある
- オスは生後一年ほどで群れを離れ、単独行動を続ける
- 雌は親子で群れを形成する
- 成獣の雌のみで群れを形成することもある
- 本来は昼行性だが、人間を避けるために夜間中心に行動する様になった



【主なイノシシ被害】

- 農作物を踏みつぶす
 - 農作物を食い荒らす
 - 農作物を食べないが掘り起こす
 - 田んぼで泥浴びをし、田を荒らす
 - 民家付近にて、ゴミを荒らす
 - 人に噛み付く
- ※もし被害に遭われた場合は、市役所にご連絡下さい。
- ※一度お気に入りの場所と認識した場合、あらゆる手段で侵入してきます。



【イノシシの被害を防ぐために】

- イノシシの侵入経路を電気柵・鉄柵などで塞いでおく（高さが足りない場合は、柵を二重に張って奥行きを作るのも有効）
- 雑草が繁茂している場合は、イノシシが身を隠せないように刈り払っておく
- 放棄する畑は刈り払っておく・農作物はすべて収穫し残さない
- エサになるものを残さない（供物・残飯など）
- 山に残飯ゴミを放置しない（味を覚えてしまうため）
- 花火（爆竹など）で脅かす（慣れに注意）
- イノシシの嫌いな臭いをつける（慣れに注意）
- 地域で協力して広範囲に対策する事が効果的です。

※イノシシを見かけたら？

- 追いかけてりせず、速やかにその場から離れましょう。
- イノシシは普段はおとなしい動物ですが、威嚇すると興奮して人間を襲うことがあります。
- 子供のイノシシを見かけたら、近くに親がいますので注意してください。

問い合わせ先
相生市農林水産課
0791-23-7156

【イノシシの駆除方法】

・柵などを設けて侵入を防止する

柵を二重に立てる（立体感を出す）・斜めに立てる（柵の上部のみ外側に向ける）事も効果的です。（イノシシの目線からは飛び越えづらく感じます。）

柵を二重に立てる際は、内側の柵をトタン等にする目隠し効果が得られます。

柵が飛び越えられない場合、穴を掘りくぐり抜ける事があるため、地面に網を張るのも有効です。

電気柵も有効な手段として、近年その効果が注目されています。

電気柵を使用する場合は、漏電を防ぐため周囲の草を刈って設置してください。

イノシシは硬い毛に覆われているので、有刺鉄線の効果はあまり期待出来ません。

※農地を守るために、地域を効率的に防護するための防護柵には費用を補助が受けられる場合があります。

・イノシシが嫌う薬剤を撒いて遠ざける

臭いを警戒して近づかなくなりますが、慣れると効果が無くなる場合があります。

慣れを防ぐために複数の忌避剤を分けて使用する。

既に被害に合っている場所には効果が表れにくくなります。

・犬を飼う

イノシシが犬の足跡やマーキングの臭いを警戒します。

イノシシが現れると犬が吠え続け、追い払います。

※イノシシが興奮し、犬に突進する事があるので注意してください。（犬の散歩中に遭遇した場合は、速やかに犬を遠ざけましょう。）

・捕獲器を設置する

なるべく耕作地周辺を避けて設置してください。（被害の状況によります）

餌付けになるため、なるべく周辺で栽培されている作物を誘い餌に使わないでください。

警戒されやすいので、周囲の植物でカムフラージュすると効果的です。

捕獲器は少し土に埋めて、底の金網が見えない様に設置すると警戒されにくくなります。

設置場所を頻繁に変更すると、警戒して捕獲器に近寄らなくなるので注意してください。

・市役所や猟友会に捕獲・駆除の依頼をする

一度、餌場と認識した場所には、あらゆる手段で侵入を試みます。

イノシシなどの野生鳥獣は「鳥獣保護および狩猟に関する法律」で保護されており、基本的に捕獲をすることは禁止されています。しかし、鳥獣による被害が大きい場合は、有害鳥獣として捕獲することが可能となります。

※捕獲に必要な銃や罠を使用するには資格が必要となります。

また、捕獲を行うためには、申請が必要となります。

・周囲の雑草を刈る

